



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

リハビリテーション室を 紹介します

リハビリテーションとは、re（再び、戻す）と habiris（ふさわしい、適した）から成り立っています。つまり、単なる機能回復ではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしく生きること」を指します。リハビリテーションが必要と診断されると、医師の指示のもとに、その人の症状や運動機能に合わせたリハビリテーションを専門の担当者とともにに行い、失われた機能回復を目指します。現在、市民病院では理学療法士8人、作業療法士3人、言語聴覚士3人がリハビリテーションを提供しています。



リハビリテーションを行う3つの専門家

●理学療法士

病気やけがによる障害に対し、機能の回復を目的として運動療法および物理療法を行います。日常生活活動の改善を図り、最終的には生活の質の向上を目指します。

●作業療法士

日常生活の諸動作、仕事や趣味など人間の生活全般に関わる様々な活動を「作業活動」と呼び、それらをリハビリテーションの手段として動作の向上や在宅復帰を支援します。また、認知症サポートチームの一員として、認知症の人への支援も行います。

●言語聴覚士

主に脳卒中などの後遺症で「話す、聞く、読む、書く」などが難しくなる失語症や高次脳機能障害、ろれつが回りにくくなる構音障害のある人に対し、社会復帰を支援します。また、飲み込みの障害に対するリハビリテーションも行います。

これからも医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなどのチームによるリハビリテーションを行っていきます。

碧南の歴史へのいざない

問合せ
文化財課内市史資料
調査室 ☎(41)4566

No.56 西端の「応仁寺」(3)

応仁2年（1468年）、如光の案内で三河を訪れた蓮如は、西端を拠点に精力的に布教をしたとされ、如光は、蓮如を案内したことを縁として、如光の門徒らにより、三河国内に60か所以上の道場が開設されたと伝えられています。蓮如の布教で、天台宗から本願寺派へ、高田派やほかの門流から本願寺派へと転宗、転派の流れが起こりました。如光が蓮如を案内した矢作川流域から知多半島、尾張で本願寺門徒化が急速に進んだとされています。この地域は全国的にも本願寺勢力の著しい地域となったようです。

蓮如自身がいつ三河を布教したか、どこをまわったかが正確に確認できる文書史料はあまりなく、蓮如が三河布教の拠点とした西端ですら、伝承が中心資料といわれています。そのなかで、^{えくん}応仁2年5月20日の西端道場の創始者患薫を願主とする六字名号は、市の宝物と考えられます。蓮如は西端村を去るとき、別れを惜しむ村人のため、100幅の小判名号を揮ごうし西端に残したという伝承がありました。

昭和29年（1954年）ごろ、明治村史を残された齊藤勘吾氏をはじめとし京極徳順・杉浦清三郎氏は、蓮如伝承を実証するため西端村中の本願寺門徒の宅をくまなくまわり調査しました。そして、仏壇にある「御脇書名号」の1つひとつを検討しました。結果、蓮如の真筆に間違いないとされる名号を20数点発見しました。蓮如がいかにか西端の村人をいとおしんだか、そして心配りができたか確認できる調査がなされたのです。油ヶ淵遊園地に如光の業績をたたえる如光堂があり、昭和3年に建てられ、その後、昭和20年の三河地震で倒壊しましたが、昭和49年に再建されています。



△油ヶ淵遊園地にある如光堂